

令和8年度 梶崎市立郷ノ浦中学校学力向上プラン

梶崎市立郷ノ浦中学校

学校教育目標 **徳 知 体 調和のとれた心豊かな生徒の育成**

豊かな人間性と確かな学力を身につけた
生徒の育成を目指す学校教育の実現

全職員が自校の課題
を理解し、日々の授
業改善につなぐ職員
室

『第五版』をもとにした授業改善の推進と学
びに向かう集団づくりおよび個別指導の充実

学校教育の核である『授業』を中心に据えた学力向上

＜本校生徒の実態＞

□令和7年度県学力調査／令和8年度県学力調査 の結果から

県平均から+

-10.0ポイント

令和7年度						
現 3 年	国語			数学		
	領域	県	本校	領域	県	本校
	知識技能			数と式		
	話すこと聞くこと			図形		
	書くこと			関数		
	読むこと			データの活用		

令和8年度						
現 2 年	国語			数学		
	領域	県	本校	領域	県	本校
	知識技能			数と式		
	話すこと聞くこと			図形		
	書くこと			関数		
	読むこと			データの活用		

学習指導要領の領域別に見た結果は以上の通りである。2年国語は「書くこと」、2年数学は「関数」と「データの活用」において正答率が40%を下回っている。評価の観点別では思考・判断・表現の通過率が低く、問題形式別では記述式問題の正答率が低くなっている。国語科においては、自分の思いや意見を記述で伝えることが概ねできているものの、「読むこと」が低く、他人の言葉から考えを推察したり、細かな情報を得たりすることが苦手だと考えられる。文章を粘り強く読む力が弱いことから、条件作文では条件を満たした文章を書くことができない。数学科においては、記述問題の正答率の低さ、無解答率の高さから、説明を書くことに抵抗があると考えられる。作図の基本知識はあるが、活用することができていない。

全体を通して、

- ・問題文を最後まで読むことができない
- ・題意を読み取ることができない
- ・何から書いてよいかわからない
といった状況がある。

- ・筋道をたてて考える力
- ・適切な情報を取捨選択して活用する力
- ・自分の言葉でわかりやすく表現する力
をつけていかなければならない。

- ・問題に対して主体的にかつ粘り強く取り組み、自分の考えを文章で表現する活動を取り入れていく必要がある。

以上のことを踏まえて、基礎的・基本的事項を定着させるとともに、問われている内容を正しく理解し、自分の考えを表現する力をつけさせる活動を、全教科で取り組んでいく必要がある。

研究主題 「主体的に学びに向かう生徒の育成」
～授業の集中力向上と家庭学習の習慣化を目指して～

「主体的に学びに向かう生徒の育成」のために

各教科において、課題意識をもたせる授業実践に取り組む中で、主体的・対話的な学びを仕組む。生徒自身が授業の中で集中して調べる、表現する、議論をする等の学び合う活動を目指す。また、生徒自身が自己の課題を把握し、家庭での学習内容を選択、決定、取り組むという家庭学習の習慣化を図っていく。

学力向上に向けた基本方針

- 1 教師の指示や意図が生徒に伝わるよう、発する言葉を精選し、主体的・対話的な活動を仕組む。
 - 2 学びを定着させるための「ふりかえり」の時間と適切な内容を十分に確保し、「わかった」「できた」を実感させる。
 - 3 2着1黙(2分前着席・1分前黙想)の徹底を通して授業規律を確立し、落ち着いて授業に向かわせる。
- 以上の3点に重点を置き授業改善を行うことで、集中し学び合う活動を実践し、主体的に学びに向かう生徒を育成する。

●校内組織と取組

授業改善部

- ①指導案の形式
- ②授業研究の計画と実施
- ③ICT機器の活用

学習支援部

- ①学力向上対策
- ②家庭学習の習慣化に関する研究
- ③特別支援教育の推進
- ④学習環境、学習規律の工夫・改善
- ⑤キャリア教育の推進

調査研究部

- ①家庭の教育力向上を目指した啓発活動(三点固定)
- ②生徒の学びを検証するアンケートの項目検討および実施・分析
- ③読み方レスキュー意識調査の実施

「子どもが学ぶ力を身につけ、主体的な学びを発揮できる授業」の実践

ICT機器の積極的かつ効果的な活用

全国学力学習状況調査及び県学力調査結果等の分析・プランの見直し

梶崎市の目標である「豊かな人間性と確かな学力を身に付けた子ども」の育成につなげる